

令和4年度 東三鷹学園 三鷹市立北野小学校 学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価 ※学園内で統一記述				学校評価 ※学校ごとに記述											
今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること				来年度の重点課題を解決するための改善方策				今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述				来年度の改善方策 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述			
今年度の重点目標				課題と改善方策				今年度の重点目標を達成するための具体的方策		第1回評価 第2回評価		自己評価(第2回)		学校関係者評価(第2回)	
取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方策	取組項目	学校の経営目標(中期目標)	今年度の重点目標(本年度目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	取組	成果	取組	成果	取組	成果	取組	成果
コミュニケーション・スクールの運営	1. 東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)の充実 2. CS委員会や学園のPR活動の推進 3. サポート隊の充実、地域人財の活用 4. スクール・コミュニティの創造に係る	1 児童・生徒は意識して概ね活用できている。また、CS委員会評価部において、アンケート結果を分析し、次年度からの家庭での取組のさらなる充実に向けて東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)の改善を進めることができた。 2 CS委員会広報部において、地域の関係諸団体の協力を得て、誌面を工夫する等して学園カレンダーを充実させることができた。 3 各校でのサポート隊の活用が増え、徐々に児童・生徒の教育活動を新型コロナウイルス感染症対策以前のように充実させることができた。 4 新しい生活様式に基づいた運営や参加の仕方等を地域関係団体とともに工夫することによって、従来から地域で伝統的に行ってきた行事等に協力するとともに、新しい形態での運営	1 児童・生徒の学年進行に伴い、児童・生徒及びその保護者の東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)への取組が増加傾向にあるので、引き続き、学校とCS委員会が協働して、学園・学校だけでなくCS隊等を活用し取組を紹介し、児童及びその保護者の理解を深めることができるようにしていく。 2 年間をとおして、CS隊より、学園HPに学園スタンダード(キャリアパスポート)の特長を組合せて、PRを実施する。 3 学校と学園サポート隊事務局との協力体制をより効果的に運営していく。手帳型の工夫を工夫し、地域人財や大学生等の積極的な活用を図っていく。 4 学校3部制の2部に応じた、放課後の児童・生徒の居場所の確保を視野に入れ、放課後の子どもがアや学童保育所との連携した取組、中学校における部活動の地域・人財等による新たな支援体制の構築を	CS委員会と協働して地域の方々と共に教育活動の充実を図り、スクール・コミュニティの中心としての役割を担う。 スクール・コミュニティの創造を図る。	地域・保護者と連携した教育活動を推進する。 地域学習の充実や地域人財の有効活用	・サポート隊や関係諸団体と連携した取り組みを積極的に行う。 ・各学年で各学期に1回以上地域人財を活用した活動を行う。	・CS行事、地域行事に教員全員が年1回以上参加する。 ・SC推進員や地域コーディネーターと協働し、放課後の新しい子どもの居場所を創造する。	3	4	4	3	3	4	3	3
と小・中一貫の教育活動	1. 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2. 相互乗り入れ授業の充実 3. 児童・生徒の交流活動の充実	1 中学校における人権尊重教育推進のための取組や小学校における校内研究を重視し、学園カリキュラムに基づいた授業改善に向けた小・中教員による相互理解が深まり、具体的な提案が増えつつある。 2 中学校の保健体育科教員の小学校授業への参加、小学校教員による中学校授業のサポートともに計画的に実施することができた。 3-1 新しい生活様式に基づいて、これまでの伝統を守りながら、第六中学校を会場として実施する等の工夫をして、小・中の教員がともに児童・生徒の成長を見守りながら、児童・生徒主体の交流活動を実施することができた。 3-2 あいさつ運動の実施、デジタル・シティズンシップ教育に係る子ども熱議、CS委員・教員代表との熱議をとおして、児童・生徒	1 学習指導要領に基づいた授業実践をとおして、学園カリキュラムの改善を進めていく。 2 小・中ともに、授業における指導の内容や方法等の連絡方法の改善など工夫していく。 3-1 学園の地域性を活かしながら、発達段階に応じて農作業などを児童・生徒がともに体験する取組をとおして、交流活動を充実させていく。また、中学生が地域の担い手として活躍できる場として、小学校の運動会へのボランティア参加などの機会を増やしていく。 3-2 あいさつ運動、デジタル・シティズンシップ教育に係る熱議等の経験を活かし、学園として東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)の取組やいじめ防止対策などについても、子ども熱議や大人との熱議をとおして、児童・生徒の自主的自発的な活動	小・中一貫校「東三鷹学園」の教育活動の質的向上を目指す。 アフターコロナを見通して、持続可能で今できる交流活動を見出し、推進する。	小・中学校相互乗り入れ授業の充実を図る。 小・小、小・中の様々な交流活動を通して、人間関係を深める。	・計画された乗り入れ授業の内容を精査し、より効果的に実施した内容をめざす。 ・持続可能で効果的な交流活動を目指し、計画を見直しながら、東三鷹学園ならではの交流活動にいく。	・計画された乗り入れ授業の内容を精査し、より効果的に実施した内容をめざす。 ・持続可能で効果的な交流活動を目指し、計画を見直しながら、東三鷹学園ならではの交流活動にいく。	3	1	3	3	3	3	3	3
(知) 様々な学力	1. 基礎学力の向上 2. 教員の指導力の向上 3. 家庭学習の充実 4. みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等	1-1 基礎学力の向上 1-2 小・中共通のみたか地域未来塾を計画的に実施することができ、児童・生徒及びその保護者のニーズが高まってきている。 1-3 子ども熱議、CS委員・教員代表との熱議をとおして、児童・生徒が自主的自発的にルールを創り出していく機運が高まった。 2 学園研究会の研究主題を具体的に実現できるように、各校が担う研究授業を計画的に実施し、小・中の教員が教科領域を超えて、児童・生徒がより分かる授業について協議し、理解を深めることができた。 3 各学年・学級担任、教科担任から学習用タブレット端末より定期的な課題を提示すると同時に、学年だけでなく校支援保護	1 学園研究会の研究主題に基づいた授業実践をとおして、学園カリキュラムの改善を進めていく。 1-2 地域人財や学生ボランティアの登録者を増やし、みたか地域未来塾の拡充へのニーズに応え、児童・生徒の学力の向上に向け支援を充実していく。 1-3 小学校の低・中学年の意識を高めていくことができるよう、児童・生徒で話し合いを継続し、THEの取組として定着化させていく。 2 国・都・市の学力調査等の分析を踏まえ、学園の児童・生徒の実態に即してすべての児童・生徒がより分かる授業を日常的に行っていく。 1-1 いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固なものとし、指導の充実と取組の向上を進めていく。 1-2 あいさつに関して保護者の肯定的評価も向上している。学校では、大人が積極的に挨拶することで、児童・生徒の意欲向上を図っている。家庭や地域でのあいさつにも掲げたい。 1-3 学園スタンダード活用を意識がまだ低い。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードをキャリアパスポートとしての積極的な活用をしていく。 2 学習用タブレット端末をツールとしてより有効に活用できるよう、教員からだけでなく、児童・生徒からスキルや使用の仕方を発信させる。	児童一人ひとりに合った学びを実現する。 教員の授業力の向上を図る。	個別最適な学び、協働的な学びの実現を目指す。 学習用タブレット端末を有効に活用して学力向上を図る。	・学習用タブレット端末の具体的な活用を工夫し、共有する。 ・みたか地域未来塾やジャンプアップを有効活用し、補充学習を充実させる。	・やら研や校内研究、学園研究会等を含め、目指す児童像を共有し、手立てを明確にした授業改善を推進する。	3	4	4	3	3	4	3	3
(徳) 豊かな人間性	1. 人権と言葉を大切にした指導の推進 2. デジタル・シティズンシップ教育の推進	1-1 いじめアンケートや児童・生徒との会話、生活のスタンダード、日々の指導を通して、いじめを早期に発見・防止することができている。また、スクールカウンセラーや保健室の活用により、悩みや問題に適切に対応している。 1-2 あいさつ運動期間を中心に日々の活動を通して、大人から積極的にあいさつを行うことで、児童・生徒の自覚の向上を促している。 1-3 児童・生徒が時間を守る、忘れ物をしない、きまりを守るなどの生活習慣を身に付けている。また、相手に応じた言葉遣いの意識を高くもっている。 2 熱議をきっかけに、代表委員会や生徒会から全校に呼び掛け、デジタルシティズンシップの意識の向上を図ることができた。	1-1 いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固なものとし、指導の充実と取組の向上を進めていく。 1-2 あいさつに関して保護者の肯定的評価も向上している。学校では、大人が積極的に挨拶することで、児童・生徒の意欲向上を図っている。家庭や地域でのあいさつにも掲げたい。 1-3 学園スタンダード活用を意識がまだ低い。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードをキャリアパスポートとしての積極的な活用をしていく。 2 学習用タブレット端末をツールとしてより有効に活用できるよう、教員からだけでなく、児童・生徒からスキルや使用の仕方を発信させる。	みんなでつくるみんなが楽しい学校を目指す。 挨拶の日常的な励行と決まりやルールを守ることの大切さを徹底する。デジタル・シティズンシップ教育を推進する。	・いじめの未然防止、早期発見、早期解決をめざし、児童の規範意識および自己有用感を高める。 ・あいさつの日常的な励行と決まりやルールを守ることの大切さを徹底する。	・道徳や学級活動などにおいて、人権意識を高め、思いやりの気持ちももてるように指導する。 ・いじめ調査、Q-U調査を実施し、結果を分析して、各学級でよりよい人間関係づくりを行う。	・道徳や学級活動などにおいて、人権意識を高め、思いやりの気持ちももてるように指導する。 ・いじめ調査、Q-U調査を実施し、結果を分析して、各学級でよりよい人間関係づくりを行う。	4	4	4	3	4	4	3	3
(体) 健康・体力	1. 体力の向上 2. 地域貢献する力の育成 3. 健康にかかわる食育の実践	1 (1) 中学校から小学校への体育授業への乗り入れも順調に行い、専門的な技能の習得とともに、運動に親しみ体力の向上に繋げることができた。 (2) 体力テストの結果から、学校の課題を集約し、健康教育委員会が中心となり、学園の課題を把握した。さらに、課題改善に向けたの方策を検討し、実践に繋げていきたい。 2 地域行事への参加やボランティア(地域行事・小学校行事)活動は昨年より増えたがまだ中止になるものもあった。行われた行事には例年よりも多くの児童・生徒や保護者が参加した。多くの人のために奉仕し感謝されること等で、自己有用感をもち、小学校では地域行事への参加を奨励し、地域の一員としての意識をさらに高めていきたい。	1 義務教育9年間を見通した一貫した体力向上の取組をさらに充実させていく必要がある。運動の日常化や体力調査を学園として推進していく。課題改善のための継続的な取組を学園として推進していく。また、相互乗り入れ授業を効果的に活用し、教師の指導力を高めるとともに、教員間の情報共有をさらに進める。 2 児童・生徒の地域の一員としての意識を高め、ボランティアを通して自己有用感を高めることを、継続していくことが大切である。地域行事への参加、ボランティアの参加をさらに奨励して、地域の中で人間力・社会力を高めたい。	体力向上を推進する。 北野小学校区や東三鷹学園、三鷹市のことを知り、地域と積極的に関わる児童を育てる。	・校庭芝生を生かした運動の日常化、体力テストの分析考察による効果的な体育授業改善。 ・児童の地域行事参加や地域学習を1年を通じて行い、地域との関わりを活性化させる。	・休み時間の外遊びの推奨、体育朝会、体験びやチャレンジ、北野ランランなどの取組をより効果的に実施する。	・指導という形での外遊びの奨励だけでなく、教員が児童とともに体を動かすことで、楽しみながら体力向上を図り、児童と教員、児童同士の人間関係構築にもつなげている。	4	4	4	3	4	4	3	3
特色ある教育活動	1. 特色あるキャリアアントレプレナーシップ教育 2. オリリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続等	1 IA青壮年部や地域企業、大学等との連携により、中学校だけでなく小学校においてもアントレプレナーシップを意識した地域学習を行うことができた。 2 第六中学校の2年間の人権教育の研究成果を生かし、様々な教科や活動、行事においてオリリンピック・パラリンピック教育レガシーを意識した取り組みを進めることができた。	1 学園の教育活動に関わっていただける地域人財をさらに増やし、効果的に活用できるキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進していくこと。 2 座学だけでなく体験的な活動を多く取り入れ、児童・生徒が様々な本物を体験し触れたいことができるようにする。	サポート隊や地域協力者の協力を得て、東三鷹学園や北野小学校の地域の特色を生かした体験的学習の充実を図る。 オリリンピック・パラリンピック教育の継続。	・各学年で、外部関係団体の協力を得て、アントレプレナーシップ教育の授業を行う。 ・全学年でオリリンピックレガシーが継承されるような活動を行う。	・年間に1回以上、各学年でIAや大学などの地域の方々や連携した授業を行う。 ・3年以上でオリハラに関わる授業を行う。	2	3	1	3	3	1	3	3	3
育の質の向上を目指す	1. 教職員のライフ・ワークバランスの推進 2. 地域行事等への参加	1 各校の主な取組 ・定時退勤日の設定 ・1日30分の実質的勤務時間減の努力 ・部活動編成の複数配置と定期試験週間の休暇促進 ・長期休業中の休暇取得促進 ・毎月の教職員一人ひとりの超過勤務時間の確認 ・個別に教職員の状況確認 ・年度末の消化促進 少すづつではあるが教職員の在任時間は減ってきている。教職員が仕事を効率的に行い、ライフ・ワーク・バランスを推進しようとする意識は高くなってきている。 2 地域行事は徐々に復活し、児童・生徒、保護者、教職員の	1 各校で工夫した取組を実施し、効果は出ているが時間外に仕事することが多い現状は続いている。各校の取組や成果を共有し、さらに校務改善を推進する。また、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの意識をさらに高めていく。 2 地域行事に多くの児童・生徒が参加できるPR活動を行い、地域への貢献に繋げていきたい。また、スクール・コミュニティの観点から、保護者だけでなく地域の大人が、学校に集まる企画を行い、実践していきたい。	教職員が自らにライフワーク・バランスを整えることを推進する。 児童も教員も地域との関わりを深める。	・校務の見直しやスクールサポートスタッフの活用などにより、働き方改革を推進する。 ・児童の地域行事参加推奨や地域学習を1年を通じて行い、地域との関わりを活性化させる。	・月1回以上の定時退勤日の設定と1日30分の勤務時間減を推進する。 ・学校の教育活動において、地域の方々や協働した地域学習を学期に1回以上行う。	1	1	2	3	3	1	2	3	3

①子どもたちの安心・安全を守り、学校に関わる全ての方々へのウェルビーイングを目指し、学校・保護者・地域などが協働的にかかわっていくこと。
②鷹研や学園研究、校内研究を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けたさらなる授業改善。
③保護者や地域の方々への積極的でよりきめ細かな情報発信の確立。
④学園の6委員会を生かした学園運営、小・中および小・小、幼保小の持続可能な交流活動等の充実に向けた改善。
⑤学園・学校評価および授業アンケートの結果を生かした適切な考察と改善。
⑥学校3部制の第2部の実現に向けて、地域人財や関係機関との協働による放課後の子どもの居場所づくりの実現。
⑦働き方改革に向けて、時間外在校時間週60時間以内の実現のための会議等の精進。

①コロナウイルスの蔓延で地域行事が中止になる状態に陥り、学校に実施されている。②算数は最初が得意で、よいと思う。③校庭開放以外にも教室開放がみられ、また、体育館の開放もよいと思う。④コロナ禍において取り組みが難しく、中でもよく対応していただけていると思う。⑤3学期にCS委員と先生との熱議も予定されているので、実りあるものになるよう努力したいと思う。⑥サポート隊との連携がうまくできている。⑦サポート隊、読み聞かせ等、できれば対面しての連携をお願いしたい。いまだに空席のサポートもあるようなので、地域の協力者や管理職、サポート隊と協働しての連携が継続的に進んでいるのは嬉しい。活用していきたい。⑧地域、CS行事に1回は参加する事は難しいと考える。それも民生、児童委員との交流を設けてくれた事に感謝。⑨放課後の在り方をオールバウンドで考

①いつ終息するかわからない状況で、小・小交流は進んでいく事は大きいと思う。②小・小交流や小・中交流は中学に進学した時、あつたかと思える体感である。今後とも多く実施してほしい。東三鷹学園ならではの体験、たくさんさせてあげてほしい。③乗り入れ授業の実施率が高く、小・小の交流も活発に出来たと評価できるといえる。④他学年では交流が実施されていることでも評価できるといえる。⑤他学年では交流が実施されていることでも評価できるといえる。⑥計画されている小・小交流は概ね予定どおりに実施することができた。⑦学園の地域性を生かし、農園活動や地域のフィールドワーク等における交流について研究を進めていく。

①新しいプロジェクトが入り、うまく活用出来れば、授業の質の向上につながると思う。教員同士での熱議は良いと思う。②学習用タブレットの新しい内容もしっかり活用出来ているようで良いと思う。③地域未来塾の実施もできているようで、児童数が増えるといい。④授業中に使用するものももちろんあるが、宿題でも活用してはどうか。⑤タブレット端末、単焦点型プロジェクターなどの活用を使い、授業の向上にしていきたい。校内研究・学園研究会での向上を期待する。
①自己申告における授業観察と関係付けるなどして、各教員が日常的に授業を公開し、放課後等に互いに振り返りを行うことができない。
②校内研究、学園研究会においては、研究協議の質的向上を図り、学年や教科を問わず、指導技術や個人に応じた支援をおこなうことを行い、より研究を深めていく。

①学級活動など集団生活の後の子どもの関わりが出来るよう学校でも指導していただけるように、②いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固なものとし、指導の充実と取組の向上を進めていく。
③いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固なものとし、指導の充実と取組の向上を進めていく。
④いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固なものとし、指導の充実と取組の向上を進めていく。

①給食室クラスルームの存在は大きいと思います。②なわとびのブローを生でみることはまずないで、刺激を受けたいと思います。本物に近づく機会をぜひ提供してほしいです。③体力向上と人間関係構築がよいです。休み時間も全力で走り回って下りあがりやうございませう。④先生や友達と一緒に楽しく体を動かせることは良いと思います。⑤休み時間になると先生と外遊びをしているという話をよく聞きます。興味深い話もよく聞くと先生には感謝です。これからも続けてほしい。⑥食が改善している中、朝食の目的があるのはとても良い取り組みだと思います。⑦児童が土日に触れる事は良いので、農業活動は良い。⑧先生方も児童とともに体を動かしているのはすばらしい事です。児童も嬉しいのではないかと感じます。⑨農園が近くにあるのは北野の特色なので、十分に活かしてほしい。⑩食への意識をさらに高めたい。その為に農家さん達が日々努力していること

①地利を生かして、連携の機会を沢山設けてほしい。②IAや日本女子体育大学などとの連携により、中学校で授業を受けているの子供たちにとっても楽しいと思う。③国語の授業でパラリンピックの話を学んで、子供なりにその意義を学んでほしい。④経験になっていく。⑤アロの方を招待して実際に技を見て、興味も増すのではないかと感じる。⑥スポーツ志向の醸成やボランティアマインドの育成が定着するよう期待している。

①個々でやりきれない仕事をチーム清水北野小として助け合いより北野小になっていくことを期待する。②今年ごと授業内容や先生の対応なども違ってくるのでしたかと思うが、長期の休みなどで勤務時間を調整できればと思う。③先日は消防訓練で地域の消防団の方々から消防に関する学習をしていただき、子供も嬉しそうに学んだことを披露してくれた。大変ありがたいことなので、今後も続けてほしい。④教員の業務の改善は必要である。⑤直接子と話を聞いてみる。⑥上りサポート隊も使ってみてみる。⑦こと仕事内容を相談してもよい。⑧教職員の努力だけでは解決できないものは何か？行政も一緒に協力してほしい。⑨今後地域の方々との協働した学習が発展していくことを期待する。